

消防用設備の **落とし穴** について - 西日本防災システム

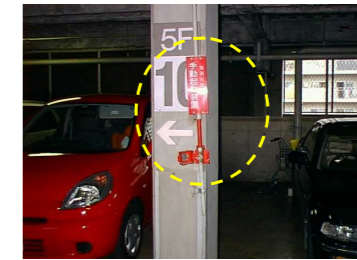


消火設備の落とし穴  
泡消火設備



泡消火設備

駐車場やその他危険物施設など、水による消火活動が不適当だと判断される場所で威力を発揮する **泡消火設備** これにも **落とし穴** ?



作動原理は基本的に**自動起動**なのですが一般駐車場における泡消火設備の場合、必ず区域ごとに**手動起動装置**が設置されています。

これが意外と厄介な.....



不慮の事故によりこの手動起動弁が開放され泡放出という事案は毎年1回は必ずどこかの駐車場で発生します。この部分で圧力を保てなければ設備を正常復旧できません。



2012年物販店駐車場で軽トラックが駐車場内の泡配管に接触して、辺り一面泡だらけ! という事件がありました。手動起動弁でも処置を誤ればとんでもない事になります。

参考 news →

設備の関係者の方は、この手動起動装置に損傷を与えて泡が放出し始めたのか実火災か **確認後**、事故であれば当該アラームバルブを閉止してください。

POINT!

- 特に10年を経過した駐車場の泡消火設備の一斉開放弁には**御注意ください**。(これはどちらかと言えば点検業者のかたへの御注意です)

泡消火薬剤の種類にもよりますが、一斉開放弁が固着している可能性があり、減圧しても開かない、若しくは圧力が戻っても開まらない、という**不適切な状態**になります。たんぱく泡原液をお使いでしたら、その確率はかなり高くなります。年度計画を立て、区画ごとに**一斉開放弁の動き**を確認してください。

POINT!

- 竣工後長期間を経過した泡消火設備によく見られる状況ですが、泡消火設備配管の自動警報弁二次側の圧力が**異常に高くな**っている場合が多くあります。これは周囲温度の上昇による膨張が原因ではなく、配管内の泡原液が動きが無いにも係らず、経年により少しずつ発泡していることが原因だと推察します。高圧のまま放置しますと、逆止弁座にバランスの崩れた状態で圧力がかかりますので弁座に歪み等の悪影響を及ぼす可能性があります。**圧力チェック**は必ず行なって、こまめに減圧してください。

貯蔵原液と配管内薬剤水溶液の総入替と管内フラッシングを行えば、完璧ですが、費用が嵩みます。



POINT!

- **PFOS**含有の泡消火薬剤の製造と使用が禁止されました。今御使用の薬剤により対応が違いますので、点検業者にお尋ねください。

設備については →

PFOSについては →



西日本防災システム  
NISHINIHON BOHSAI SYSTEM Co., Ltd  
<http://www.nbs119.co.jp/>



弊社Top Pageへ →